

悩める若手研究者に、
岡野先生が優しく
アドバイスしていただきました。



Q 最近スランプ気味です。先生にもこんな時期はあったのでしょうか?どのように乗り切ったらよいのでしょうか?

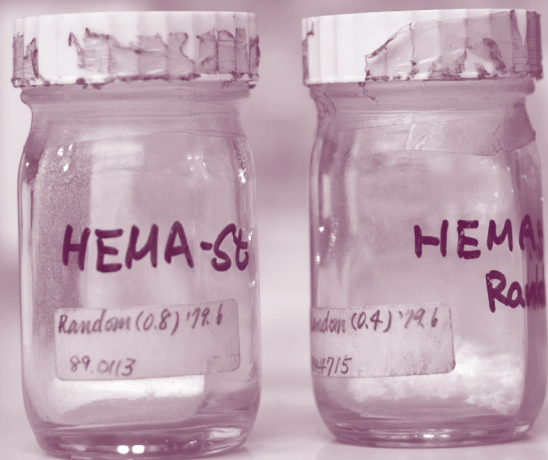
ans. 未来のためには、苦しいとき自分を磨けるチャンスと思って、真面目かつ誠実に取り組んで逃げないこと。誠実に研究に取り組んでいれば、何らかの支援があったり、運に恵まれたり新しい発展が得られると思う。私にもつらい時期はあったけれど、その時々で逃げず、嘆かず、ずっと頑張り続けた。アメリカへ渡って最初の1年は、土曜日はほとんど徹夜で論文なんかの書き物をしてたし、30~40代もそれに似た生活を続けていたね。人生では、「未来につながるけれど一番大変な道」というのが選択肢として必ず出てくる。そのときにあえて大変な道を選び、最高の努力をすることが未来を作るんだよ。そんな時は、人に信頼されたり、世の中で自分の価値を見出されたりするために、ものすごく勉強して、論文をいっぱい読んで、未来に向けた自分の研究方針を考えよう。そこを頑張れたら、他の人にはない能力が備わるんだ。ただ楽な道ばかり選んでいると、そのうち枯れちゃうよ。

Q 長引く不況で、国の研究支援が危うい状況です。ポストクに未来はあるのでしょうか?

ans. 研究者というのは、誰かにすべてをお膳立てしてもらわなければならないでしょ。ポストクのあなたは今、本気で自分を磨いて何かをつかみ取るチャンスをもっているんだよ。だったら、自分で食い扶持を勝ち取っていかないと。その中で、自分が取り組むべき主題を見つけ、周りの人に信頼される基盤を作ること。研究に打ち込める若いときにはとにかく打ち込んで、自分の可能性をどれだけ高められるかに専念しなくちゃ。そういう人生を創っていく人が将来価値ある指導者、教授になることを僕は願っている。やっぱり、職業としての研究を続けるのは、いろいろな意味で大変なこと。でも今になって考えると、大変なこと多いけれど、この年になってもまだこれからやりたいことがいっぱいあって、世界も私を必要としてくれる。それだけやりがいがある、すばらしい仕事だよ。

Q 研究職という仕事柄、なかなか家族との時間を作れず妻に寂しい思いをさせています。仕事と家庭を両立する秘訣はあるのでしょうか?

ans. 自分の仕事を理解してもらおうこと。まずは、理解のある信頼できるパートナーと結婚するというのが重要だと思うよ。理解してもらえるかどうかは、自分自身が、自分の未来をどれだけ信じて頑張れるかどうかにかかっている。どれだけ豊かな未来を思い描いて、未来に投資する生き方ができるかだよ。目の前の損得勘定しかできない人は、小さな人生しか描けない。女性も男性を選ぶときは、そういう視点で選ぶべきだよ。見てくれよりも、きっちり未来のために頑張っているやつをね。まあ、研究者がいいかは分からないけど(笑)。



あとがき

まず、はじめに、非常にご多忙な中、本インタビューに快く応じてくれた先生方に厚く御礼を申し上げます。そして、インタビュー原稿の編集をおこなってくれた有会社シーニュの皆様、また、本書籍の編集に御尽力いただいた有会社MDSの加藤大輔氏、親しみやすくおしゃれたデザインの本に仕上げてくださったティファクトリー福田友一氏、そして先生方と編集部員のとびっきりの写真を撮ってくださった井上英祐氏に感謝申し上げます。

本書は、まえがきにもありますが、大学院生と若手研究者からなるRegMed-now編集部メンバーがインタビューとなり、お聞きした先生方のエピソードをまとめたものです。素人が行うインタビューで、先生方にご迷惑をお掛けすることも多々在りましたが、先生方の話に大きく助けていただき、このように大変内容の厚い記事を完成させることができました。なかでも特に、普段はなかなか聞くことのできない研究者になる前の経験や若手時代の逸話は、非常に興味深く印象的で、惹き込まれるものばかりでした。そしてそのような時期における困難・経験・人とのつながりがあったからこそ、ユニークな研究を続けられているのだと、若手時代の過ごし方の大切さを改めて感じました。また、先を歩む先生方の、

研究者とは違った別の一面を知ることが、若手研究者にとって大変参考になるものであります。手探りで進めてきたこの企画ですが、研究の道をゆく者にとっては貴重で有益であるストーリーの数々を世に残し、また研究に携わっていない一般の方々にも先生方の魅力を伝える、大変良い機会とすることができたのではないかと思います。

このインタビューの記事の一部は、2010～2013年度にメールマガジンとして配信しています。この時期には、山中先生のノーベル賞受賞もあり、再生医療などの先端医療への世間の注目が非常に高まった期間であったと思います。本書に登場する先生方の中にも、ノーベル賞を受賞した先生の影響を受けて研究に興味をもった方もいらっしゃいます。もし本書を読んで、研究について少しでも興味を持ったたり、スランプに落ち込んでいる研究者たちが「よし、がんばろう」と思っていただけなら、編集部一同嬉しく思います。

2013年6月

RegMed-now 編集部一同



未来医療への挑戦者たち

2013年7月1日発行

発行 東京女子医科大学先端生命医学研究所
〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号

グローバルCOEプログラム
「再生医療本格化のための集学的教育研究拠点」
拠点リーダー 大和雅之
(東京女子医科大学先端生命医学研究所教授)

RegMed-now 編集室 ————— 秋元 淳
石原 純
亀石統子
近藤 誠
杉林 康
田村 篤
松浦加奈
宮田明子
村岡 恵

メールマガジン編集協力 ————— 有限会社シーニュ
書籍化・編集 ————— 有限会社エムディーエス
ブックデザイン ————— 福田友一 (T FACTORY)
撮影 ————— 井上英祐
イラスト ————— 谷山彩子

著作権上の例外を除き、本誌の全部または一部を
無断で複写複製(コピー)することは禁じられています。



フラスコ付風量調整機
Lot. No. 278



東京女子医科大学 先端生命医科学研究所
グローバル COE 再生医療本格化のための集学的教育研究拠点



東京女子医科大学 先端生命医科学研究所
グローバル COE 再生医療本格化のための集学的教育研究拠点